

令和4年度海岸漂着物等の組成調査結果及び第2期計画への反映について

1 調査趣旨

海岸へのごみの漂着状況について定点調査を行い、漂着ごみの組成を分析する。

2 調査方法

県内海岸のうち5箇所を観測地点として選定し、観測地点の範囲内に漂着していたごみの個数や重量を計測した。

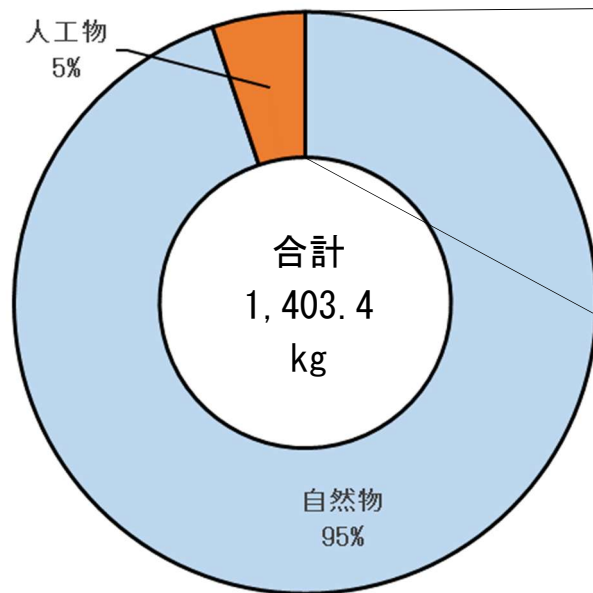
漂着ごみの分類や観測地点の選定、調査時期その他の調査手法については、環境省が作成した「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン」に基づいて行った。

3 調査期間 令和4年5～8月

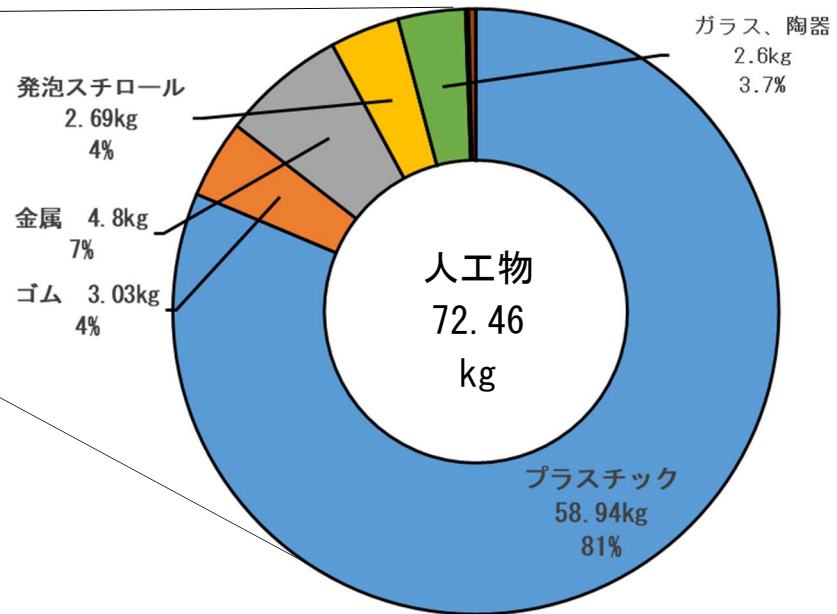
4 調査結果

全体の約9割強が自然物（流木や灌木、海藻等）だった。約5%が人工物であり、その主な組成は次のとおり。

- ・ プラスチック類（ロープ、紐類、漁網やブイなどの漁具、ペットボトル、食品容器、ストローなどの生活用品 など）
- ・ ゴム類（タイヤ、その他ゴムの破片等）
- ・ 金属類（飲料缶、その他金属片等）
- ・ 発泡スチロール
- ・ その他（天然繊維、革、ガラス、陶器、紙、段ボール等）



【図1：漂着ごみの構成（全体）】



【図2：漂着ごみの構成（左記のうち人工物の内訳）】

【表１：漂着ごみモニタリング実施状況（調査地点別）】

令和４年度 漂着ごみモニタリング実施状況

公所名	海岸名	実施日	重量(kg)	主な内容
県北土木	宇留部海岸	R4.6.20	4.20	プラ、発泡スチロール、ガラス、金属、流木
岩泉土木	明戸海岸	R4.6.6	1,373.44	プラ、発泡スチロール、ゴム、ガラス、金属、流木
宮古土木	松月海岸	R4.8.25	10.41	プラ、発泡スチロール、ゴム、金属、流木
沿岸土木	水海海岸	R4.5.19	14.40	プラ、発泡スチロール、ゴム、ガラス、金属
大船渡土木	高田海岸	R4.6.24	0.95	紙、段ボール、流木
合計			1,403.40	

大分類別の内訳

(単位：kg)

大分類	宇留部海岸	明戸海岸	松月海岸	水海海岸	高田海岸	合計	比率
プラスチック	3.50	42.47	2.26	10.70		58.94	4.2%
発泡スチロール	0.34	0.20	1.55	0.60		2.69	0.2%
ゴム		0.33	2.70			3.03	0.2%
ガラス、陶器	0.02	0.18		2.40		2.60	0.2%
金属	0.06	0.25	3.78	0.70		4.80	0.3%
紙、段ボール			0.11		0.01	0.12	0.0%
天然繊維、革						0.00	0.0%
木（木材等）	0.28					0.28	0.0%
電化製品、電子機器						0.00	0.0%
自然物		1,330.00			0.94	1,330.94	94.8%
合計	4.20	1,373.44	10.41	14.40	0.95	1,403.40	100.0%

【表 2：令和 4 年度漂着ごみモニタリング実施状況（人工物の組成内訳）】

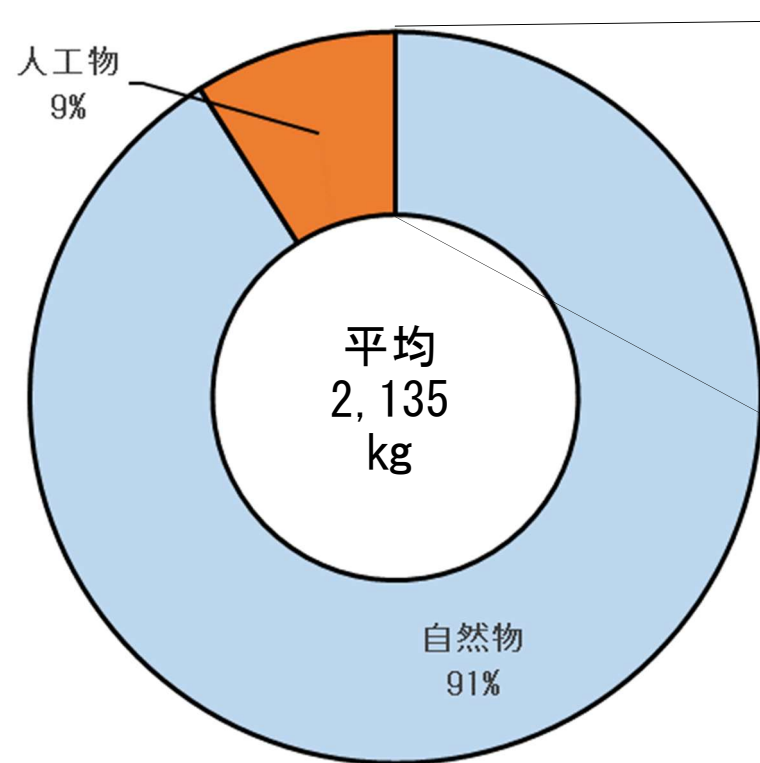
大分類	項目	重量(kg)	個数(個)	割合(%)
プラスチック	ロープ、ひも(漁具)	24.80	30	34.2%
	漁網(漁具)	7.62	19	10.5%
	ブイ(漁具)	14.26	7	19.7%
	その他のプラボトル<1L	0.70	9	1.0%
	硬質プラスチック破片	4.01	0	5.5%
	シートや袋の破片	0.13	0	0.2%
	飲料用(ペットボトル)<1L	0.90	27	1.2%
	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	0.00	0	0.0%
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)	0.07	2	0.1%
	飲料用(ペットボトル)≥1L	0.61	21	0.8%
	その他のプラボトル類≥1L	0.13	3	0.2%
	ボトルのキャップ、ふた	0.32	146	0.4%
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	0.12	18	0.2%
	ウレタン	0.82	9	1.1%
	ライター	0.03	6	0.0%
	食品容器	0.07	6	0.1%
	食品の容器包装	0.08	13	0.1%
	ストロー	0.03	9	0.0%
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	0.03	3	0.0%
	たばこ吸殻(フィルター)	0.01	65	0.0%
	その他	0.94	2	1.3%
	レジ袋	1.25	11	1.7%
	釣りのルアー・浮き	0.00	5	0.0%
	生活雑貨(歯ブラシ等)	0.03	2	0.0%
	プラスチック梱包材	1.02	17	1.4%
	苗木ポット	0.95	10	1.3%

81.3%

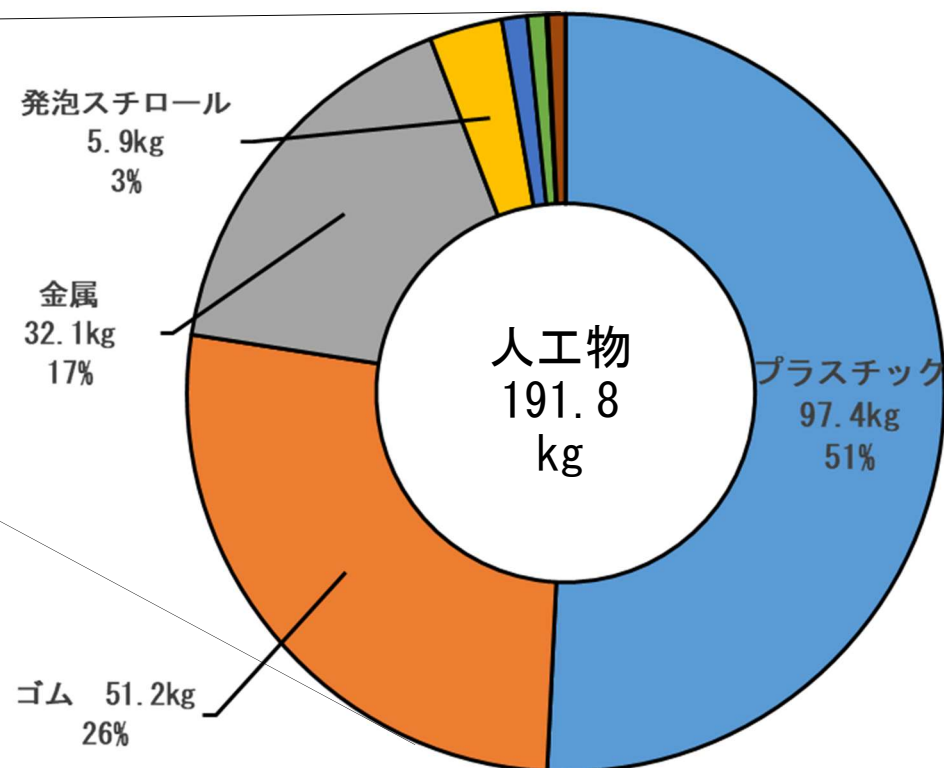
大分類	項目	重量(kg)	個数(個)	割合(%)	
発泡スチロール	発泡スチロールの破片	1.94	0	2.7%	3.7%
	発泡スチロール製包装材	0.20	55	0.3%	
	発泡スチロール製フロート・ブイ	0.50	1	0.7%	
	食品容器(発泡スチロール)	0.05	1	0.1%	
ゴム	タイヤ	0.00	0	0.0%	4.2%
	ゴムの破片	0.30	2	0.4%	
	靴(サンダル、靴底含む)	0.33	3	0.5%	
	玩具	2.40	52	3.3%	
	その他ゴム類	0.00	1	0.0%	
金属	金属片	1.01	0	1.4%	6.6%
	スチール製飲料用缶	0.19	7	0.3%	
	アルミの飲料缶	1.09	18	1.5%	
	その他金属	0.00	0	0.0%	
	ワイヤー、針金	0.50	2	0.7%	
	その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	2.00	4	2.8%	
	ビンのふた、キャップ、プルタブ	0.01	6	0.0%	
ガラス、陶器	ガラス、陶器の破片	2.60	0	3.6%	3.6%
木(木材)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	0.28	1	0.4%	0.4%
紙、ダンボール	紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	0.01	0	0.0%	0.2%
	紙製容器	0.10	1	0.1%	
	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	0.01	1	0.0%	
		72.456	595	100%	

5 第2期計画に掲載する組成調査結果の対応（案）

全体の約9割強が自然物（流木や灌木、海藻等）の傾向は、令和2年度・令和3年度と変更がない。もっとも、人工物内でのプラスチック類の組成にばらつき（令和4年度：約80%、令和3年度：約40%）があること等から、令和4年度調査結果のみで本県の傾向とすることは困難。よって、第2期計画に掲載する組成調査の結果に関しては、令和2～4年度の3年間の平均値で掲載することとしたい（人工物に占めるプラスチック類の割合は約50%）。



【図3：漂着ごみの構成（全体）】

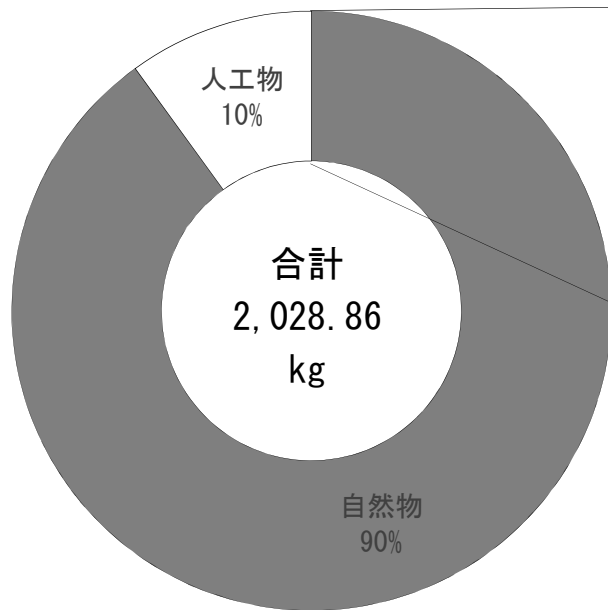


【図4：漂着ごみの構成（左記のうち人工物の内訳）】

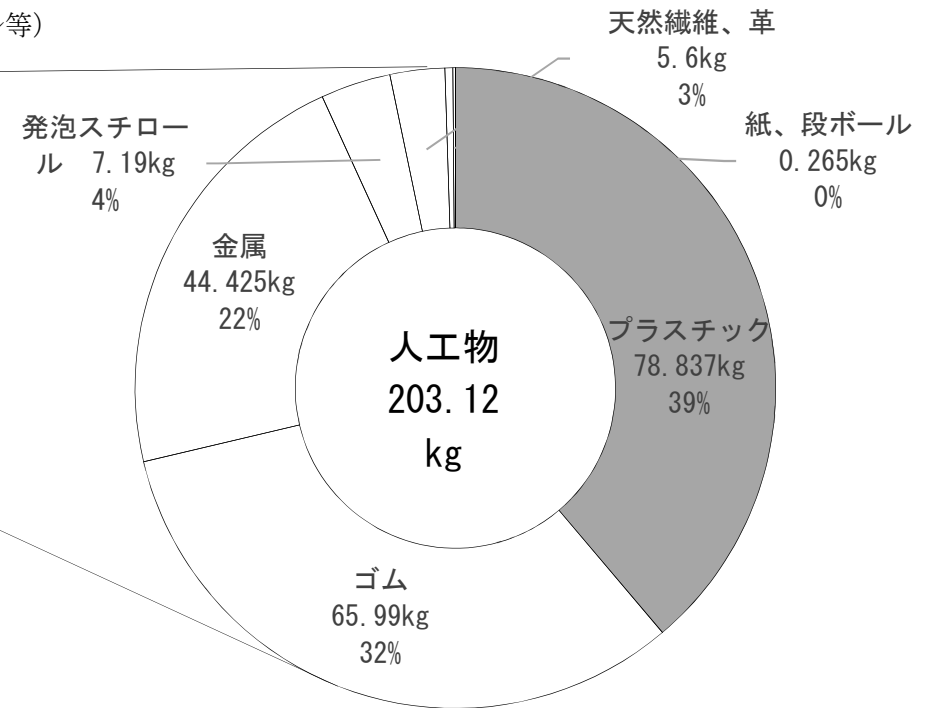
<参考 1：令和 3 年度調査結果>

全体の約 9 割が自然物（流木や灌木、海藻等）だった。約 1 割が人工物であり、その主な組成は次のとおり。

- ・ プラスチック類（ロープ、紐類、漁網やブイなどの漁具、ペットボトル、食品容器、ストローなどの生活用品 など）
- ・ ゴム類（タイヤ、その他ゴムの破片等）
- ・ 金属類（飲料缶、その他金属片等）
- ・ 発泡スチロール
- ・ その他（天然繊維、革、ガラス、陶器、紙、段ボール等）



【図 5：漂着ごみの構成（全体）】



【図 6：漂着ごみの構成（左記のうち人工物の内訳）】

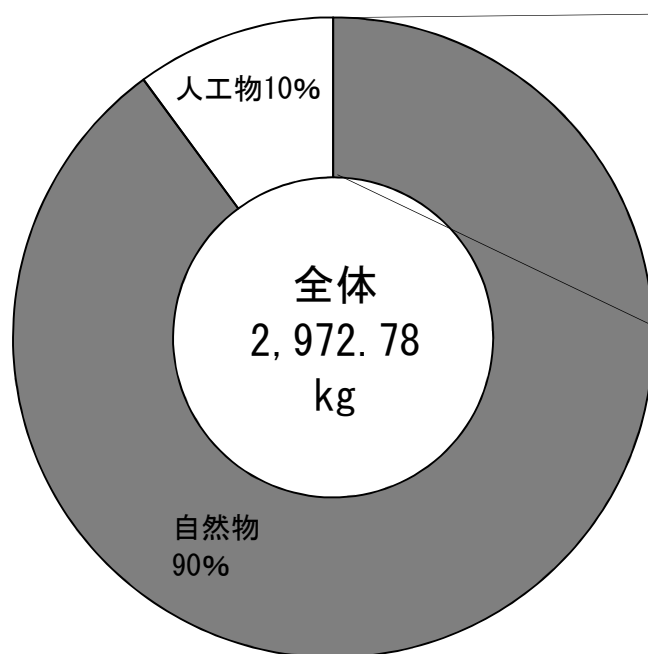
<参考2：令和2年度調査結果>

重量ベースでは、自然物（流木や灌木、海藻等）が多く確認された（全体の約9割）。

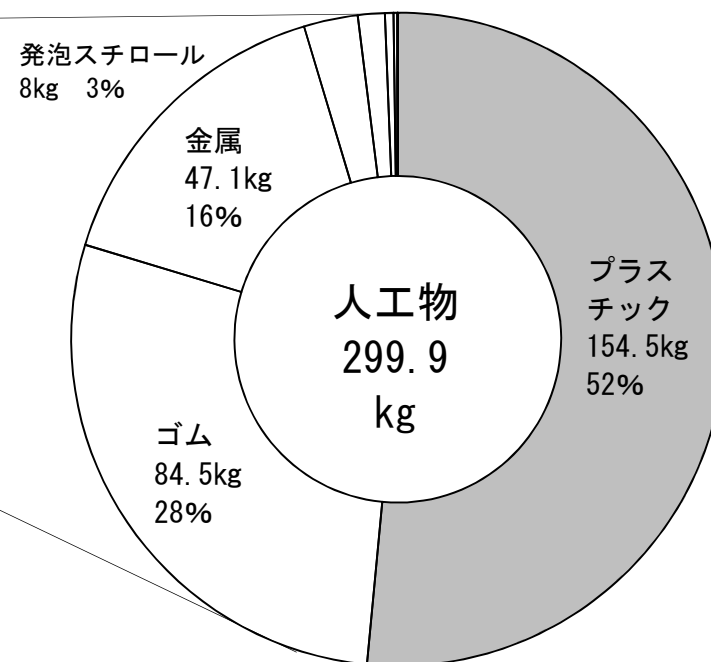
人工物としては、プラスチックが多く、発泡スチロール、ゴム、金属類が確認されている。

その内訳については、個数ベースでみると、ロープ・ひも（漁具）、プラスチック袋、ボトルのキャップ、ふた、食品容器等が多い。

重量ベースでみると、タイヤ、金属片、ロープ・ひも（漁具）、ブイその他漁具が多い。



【図7：漂着ごみの構成（全体）】



【図8：漂着ごみの構成（左記のうち人工物の内訳）】